

研究課題(テーマ)	富山県立大学 ダ・ヴィンチ祭 2023		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者			
	工学部環境・社会基盤工学科	准教授	立花 潤三
研究結果の概要			
<p><目的></p> <p>DXを活用しながら科学教育に関する企画開催の支援を行う。</p>			
<p><達成目標></p> <p>2023年5月に新型コロナの感染症法上の位置付けが5類へと変化したことにもない、対面型の科学縁日、大学探検隊、科学製作教室、およびオンライン形式での出展を企画・募集しこれを支援した。科学製作教室については新規提案を積極的に受け付けた。オンラインコンテンツについては、子供達が科学に対して興味・関心を示し積極的に参加するようなコンテンツ作りを富山テレビなどと協力しながら支援し、DX社会における新たな科学リテラシーの在り方を示した。</p>			
<p><プログラムの成果></p> <p>科学体験・学習を通して、小・中学生の科学に対する興味・関心を高めることができた。また、DXを活用した多様な対面型・オンラインコンテンツなどを通して、新たな地域貢献の形を提示できた。具体的な内容を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来場者数は約1800名、出展等参加者延べ人数は4433名で、昨年より大幅に増加した。出店数は、おもしろ科学縁日が10、大学探検隊が12、製作教室が15、その他が4、合計で41となった。当日出展協力者数は66名であった。 ・オンライン企画は全15企画の総視聴数は399回であった。 ・アンケートを行った結果、「ダ・ヴィンチ祭は楽しめましたか」については、「楽しかった/興味をもった」と答えた方が94.7%となり、ダ・ヴィンチ祭に対して概ね満足いただけた結果となった。 ・アンケートの自由記述欄には、学生やスタッフのホスピタリティの良さ、企画が沢山あって楽しかった、普段感じることができない大学の雰囲気を感じることができた、など好意的な意見が多く寄せられた。 ・スタンプラリーについては、98.7%の方が楽しかったと高い回答率を得た。 			
今後の展開			
<p>今年度は、COVID-19に対する規制緩和に伴い段階的に対面企画数が拡大させたが、企画数の多さは来訪者の満足度に直結することから、来年度以降さらに対面企画数を増やし、来訪者が楽しみながら科学への関心を高めてもらえるダ・ヴィンチ祭を目指す。また、今年度は、スタッフや学生のホスピタリティへの満足度が高かったことから、来年度以降も同じように地域住民に寄り添ったダ・ヴィンチ祭を行い、公立大学ならではの地域貢献の形として継続・発展させていきたいと考える。</p>			